

【京丹後市】
校務 DX 計画

1. 趣旨

京丹後市では、GIGA スクール構想に基づき、令和 2 年度から ICT 環境の整備を進めてきました。しかしながら、教育現場では業務の複雑化や負担増加といった課題が依然として存在しており、効率的な校務運営が求められています。

これらの課題を解決するため、本市町村では教職員の働き方改革の一環として、校務のデジタルトランスフォーメーション（DX）を推進し、業務の効率化や負担軽減に向けた具体的な取り組みを進めることとします。

2. 京丹後市における課題等について

文部科学省が 令和 5 年 9 月に実施した「G I G A スクール構想の下での校務DXチェックリストの自己点検結果」（以下、「校務DX自己点検」という。）に基づき、特に、文部科学省が示す校務の効率化・ペーパーレス化に向け、以下について取り組むことで、校務DXの推進を図る。また、本市は平成 28 年度から校務支援システムを導入しているが、学校運営の効率化を図るため、システムの見直しも含め、各種クラウドサービスとの連携機能の充実を進めていきたい。

(1) クラウドサービスの活用

現状及び課題

本市では、各種クラウドサービスを導入しているが、現在、学習用途及び校務処理でのクラウドサービス活用は一部での活用に留まっている。この要因としては、情報セキュリティポリシーの整備が不十分であり、校務処理でクラウドサービスを安全に活用しやすい環境が整っていないことが考えられる。また、クラウドサービスの利用に際し、利用することのメリットや利用方法が各校に十分に共有されておらず、各校間で格差が生まれてしまっている。

(2) ペーパーレス化及び FAX の廃止

現状及び課題

- ・保護者用連絡アプリを導入したが、ほとんどの学校で十分に活用できていない。
- ・アプリ対応が困難な保護者や紙媒体での配布を求める保護者がおられる。
- ・職員内でペーパーレス化が進められていない。
- ・教職員の働き方に改革が求められている。
- ・FAX を通じた文書のやり取りが残っている。
- ・押印の廃止が進んでいない。

3. 校務DXに向けた取組

上記の課題を踏まえ、校務DXに向けた取り組みを以下のとおり進めます。

(1) クラウドサービスの活用

課題の解決へ向けた取組

今後、授業等におけるクラウドサービスの一層の活用を図りながら、校務処理におけるクラウドサービスの活用を積極的に進めていく。その際、以下の2つの事項を中心に取り組むものとする。

○情報セキュリティポリシーの策定

⇒ 教育委員会がGIGAスクール構想の際に定めた「GIGAスクール構想学校情報通信ネットワークのしくみ・運用・ルール」では、当時導入したICT機器の使用方法等の記載に留まっており、授業等の学習段階におけるクラウドサービスの活用や、校務処理におけるクラウドサービスの取扱いについては十分に明示されていないため、学校現場におけるクラウドサービスの活用が図れるよう、情報セキュリティポリシーとして運用・ルール等の見直しを進める。

○クラウドサービス活用しやすい環境の構築

⇒ クラウドサービスの利用に際し、利用することのメリットや利用方法が各校に十分に共有されておらず、各校で格差が生まれてしまっているため、Google等の事業者主催の研修の実施や全国の先進事例の収集と提供、市内学校の有用な取組事例について教育委員会を通じて共有するなど、クラウドサービス活用のきっかけを提供し、ICT支援員と連携しながら、教育委員会としてのサポート体制を充実させる。また、校務支援システムの見直し、またはアップデートにより、各種クラウドサービスと校務支援システムの連携機能を充実させ、校務の効率化を図る。

(2) ペーパーレス化及びFAXの廃止

課題の解決へ向けた取組

同様の保護者宛の文書であっても、学校によってデータ配信と紙媒体で配布しているところがあるため、アプリ活用によるデータ配信を原則とした統一的な基準を設ける。特別な事情のある保護者に対してのみ、紙文書での対応とする。また、教育委員会から直接保護者へ通知ができるシステムを採用し、教職員の働き方改革を図る。

さらには、クラウドサービスを活用し、会議資料、決裁資料をクラウド上で共有することで、押印不要のシステムの構築、情報の共有、共同編集、成果物の再構築を効率的に行う。FAXについて、関係機関との調整により、文書のやり取りについて見直しを図り、ペーパーレス化を進める。